



ごうちゃんねる

2025/07/17

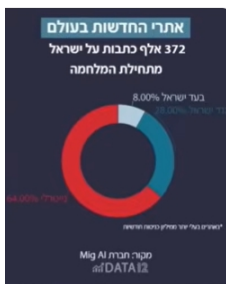
パレスチナ問題が解決しない本当の理由 捏造された物語に踊らされるな！

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今の中東情勢を考える上で、ちょっと知っておいた方がいい知識があるんじゃないか。それは、イスラエル建国の経緯についてです。イスラエルに注目することが今の聖書預言の理解に必要なんですが、この話題になった途端、非常に戦闘モードに入る方がいらっしゃるんですね。

「クリスチャンなのに、どうしてこんな国を応援するんだ?!」と、非常に感情的に攻撃する方が多いんです。なぜそうになってしまうのか、色々考えてみました。その結果、歴史的事実に基づく理解ではなく、世間一般に流布されている物語が、多くの日本人の頭の中に流れてるんじゃないかなと思ったんですね。



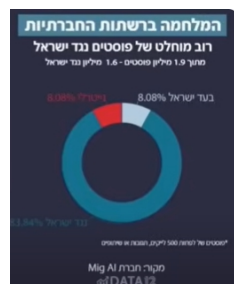
これは去年のデータで少し古いんですが、世界中の一般のマスコミが中東情勢、特にガザ戦争のことをどのように報道しているのかについて、人工知能による統計です。

イスラエルの立場に立った親イスラエル報道が8%。

ニュートラルな考え方が64%。

反イスラエル・親パレスチナ・親ハマスの立場に立つのが28%。

これでも3倍以上なので、えらい偏りがあるなあと思うんですが。



これは、いわゆる大手マスコミというよりも、ネット上に流れる情報の分析です。親イスラエルが8.08%であり変わらない。ニュートラルが8.08%でトントンなんですが、83.84%が反イスラエルなんです。

「イスラエルけしからん！ハマスのほうがけしからん！」という意見が圧倒多数なんですよ。

この圧倒多数の意見は、いわゆる無名のネット民たちの間だけで言われているのではないんです。

2023年10月7日にハマスがテロをやった時、国連事務総長グテーレスは何と言ったか。「ハマスがやったことは悪い。弁解の余地はない。しかし、その悪をハマスがせざるを得ないように追い込んだのはイスラエルじゃないか。」

このような意見を言っているのは、国連事務総長だけじゃありません。

でも、国連事務総長の発言は大きいですよ。だって、国連のトップですから。

国連のトップが言っているなら間違いない、と思い込むんじゃないですか。

日本のお茶の間にテレビなどでよく登場する中東問題研究者の方々、色んなワイドショーなんかに出て、中東問題の解説をする方がいますよね。

そのような方々も、おしなべてこの考えになるんです。なぜそうなるのか。

史実に立脚してそう言っているのか。そうじゃないんです。

日本に中東学会というムラがあります。アカデミックなムラですよ。
このアカデミックムラを作ったのは、東京大学名誉教授の板垣雄先生です。
現在この中東問題研究者は、板垣雄三先生の弟子・孫弟子・ひ孫弟子がブワーツと裾野に広がって、中東情勢の解説集団となっているんですが、自分が世話になった大恩師、やはり逆らうことはできないんですよ。

板垣先生は何と言っておられるのか。あの2023年10月7日のテロの直後ですよ。
「テロの被害を受けたイスラエルが自衛戦争をやっていると言う人がいるが、そんな文脈で読んでいる限り、この中東問題の本質は見えません。これは、イスラエルの長い長い抑圧に対する抵抗運動なんです！」

ムチャクチャですよ。ハマスの肩を持ってるんですよ。日本の中東学会のトップと言われているボスが。このボスの言いなりになっているわけですよ。
これ、ハッキリ言って嘘ですからね。デタラメ。間違い。妄想。

でもどんな嘘でも、100回聞いているうちに、ホンマかなと思ってしまうんですよ。現に今の中東情勢の、あるいは中東問題入門の解説をしている人たちは、基本的には、その物語の上に立って解説してるじゃないですか。

その下敷きになっているナラティブ／物語は、よく言われるのが玉突き理論。
先頭車がいて2番手がいて、2番手の後の3番手の車がボンと当たったので、止まっていた2番手の車が先頭の車にドーンと当たって、玉突きみたいになる交通事故。一番悪いのは最初にぶつかった奴なんだけど、何も悪くない先頭車がゴンゴンとやられて被害に遭う。そんな理論で中東問題を解説する人たちが多いんです。

最初にぶつかったのがヨーロッパ。ユダヤ人たちをヨーロッパで大迫害してヨーロッパから追放し、ユダヤ人たちが逃れてドーンと中東に突っ込んで来た。
そのユダヤ人たちが先住民のアラブ人たちにドーンと突っ込んで、武力で彼らを追い散らし、自分たちの国を造った。

そうじゃないということを、史実に基いて解説します。
現在のイスラエルは、イスラエルが武力で先住民たちを追い散らして、武力戦争の結果造ったんじゃないんですよ。国連決議に基いてやったんです。

1947年11月29日、国連はこのエリアに2つの国を造ろうと決めました。
パレスチナと呼ばれているこの地方に、ユダヤ人たちがたくさん住んでいるところにはユダヤ民族の国を造る。アラブ人たちがたくさん住んでいるところにパレスチナ・アラブ人たちの国を造る。エルサレムは互いに譲り合う余地がないので、国際管理都市にして、どちらのものでもなく国連／世界が管理する。
この案が圧倒多数で通ったんですよ。

この国連決議に基いて、1948年5月14日にイスラエルが独立宣言したんです。
これは、イスラエルにとって非常に不利な割り振りでした。

でも、1900 年間国が無くて、ようやく国際社会に認知される国家ができるチャンスが来た時、とにかくこのチャンスをつかもう！ということで、国を造ることに注力して建国したんです。

1948 年 5 月 14 日の段階で、アラブ人難民／パレスチナ難民はゼロです。もしこの時に、ユダヤ人たちがイスラエル独立宣言をしたように、パレスチナ・アラブ人がパレスチナの国を持つことを承服していたら、今頃は 2 つの国があって、こんな難民問題なんかはないんですよ。

ところが、事はそうはかどらなかつたんですね。国が出来て当日に攻め込んだら、どんな国も自分の国内を整えるだけで精一杯だから勝ち目ないだろう。ということで、この出来立てのイスラエルに、5 つの国がバサッと入って行った。

入った時に、イスラエルになる予定地にいるアラブ人に対して、「イスラエルなんか木端微塵だ。次の週には無くなっているから、一旦イスラエルから出て、ほかの国に逃げなさい。私たちアラブ連合軍がイスラエルを殲滅した後で戻って来なさい。イスラエルなんか秒殺で破滅させるから大丈夫。行きなさい！」

イスラエルは、「そんなことはありません。私たちは勝つから。そして、私たちと同じ市民権を持つ国になるんだから、残ってください」と説得したんです。残ったアラブ人は現在アラブ系イスラエル市民、イスラエル人。出て行った人たちが、今のパレスチナ難民と言われる人たちです。

もう一つ、パレスチナ難民と言われている人たちのルーツを言います。戦争の結果、イスラエルは押し返して、22%領土を増やしました。防衛戦争の結果、国連で割り振られていた土地よりも増やしたんです。



では、パレスチナ・アラブの人たちは、国連であてがわれていた領土よりも 22%減った分に国を造ったのか。そうはならなかつたんです。本来パレスチナの人たちに与えられた、そこに出来るはずだった国の領土を、2 つのアラブの国が占領してしまつたんですね。それはヨルダンとエジプト。ヨルダンが占領したのがヨルダン川西岸地区で黒い (濃い) 緑。エジプトが支配したのがガザ地区。

ヨルダンがヨルダン川西岸地区を取った時、「賛成！」と言つた国は、世界に 2 つしかありませんでした。当事者のヨルダンと、もう一つはイギリス。ほかのアラブの国々は「おまえ、何したってん？」と。「ここ、パレスチナ人の国になる領土とちゃうん？ヨルダンはもう国持つてるやん。なんでその上、それを横取りするんや！」ブワーって非難されるんですが、イギリスは「やっちまえ！」とヨルダンを全面的に応援したんです。

ヨルダンはイスラエル建国より 2 年早く独立したばかり。

1946年に独立したんです。この国も出来立てのほやほやなんですよ。
よその国にちょっかい出して、侵略戦争するような体力なんか無いんですよ。
それでもやったのは、イギリスの全面支援があったからです。

イギリスはなぜヨルダンの味方になって、パレスチナのところに攻めこむようになったのか。これには深い理由がありまして。
イスラエルの代表はベングリオン。鉄腕アトムのお茶の水博士のモデルの人です。
労働党の考え方の下、ベングリオンがリーダーシップを執って、イスラエル建国をやっつけていこうとします。

ところが、パレスチナ・アラブ人の方は、とんでもない人物がリーダーだった。



ハージ・ムハンマド・アミン・アル＝フサイニー。

彼はエルサレムのイスラム教の名門家の指導者で、親戚がアラファト議長です。彼はただのイスラム教指導者じゃない。政治家。闘争家。革命家なんですよ。

ユダヤ人が大嫌いなんです、輪を掛けて嫌いなのがイギリス。「イギリスというのはよそからやって来て、中東を勝手に線引きして、自分たちの好きなように、後々支配しやすいように国境線を勝手に引いて、独立させた後も息のかかった国をいっぱい造って、中東世界を支配しようとしている。このイギリス、大っ嫌いだー！！」

第二次世界大戦の最中もずっと反英闘争で、イギリスに対するテロをやりまくってたんです。

イギリスは彼の首に賞金を懸けます。「コイツ、何とかしてやっつけなあかん！」イギリスに追いかけて、とうとうイラクに高飛びしたんですが、イラクにもイギリスの追手が入って来たのでヨーロッパに逃げました。そして、だれの庇護の下にいたか。



「ヒトラーと会談するフサイニー」。

彼はヒトラーの親友なんですよ。

ヒトラーと話して、「ナチズムの考え方は一緒や。イギリスを追い出してユダヤ人全滅、一緒や。ヒトラーさん、あなたは素晴らしい。私たちが考えている理想を実現する最高の人物や！ヨーロッパ中のユダヤ人を全部ぶちのめしてください。あなたたちが私たちに軍事力を貸してくれるなら、私たちがユダヤ人を全滅させるためにやりますよ！ついでに、イギリスもやっつけてしましましょう！」そういう思想の人物がパレスチナのリーダー。

だから、イギリスは全然面白くない。こんな奴がパレスチナの国のリーダーになっていたら、テロの巢窟になるし、イギリスにとって目の上のたんこぶ。

なので、ヨルダンに「やっちまえ」と。

ヨルダンがめちゃくちゃ強かったんですよ。出来て2年しか経ってないのに、ヨル

ダン川西岸が、あっという間にヨルダン王国の手中に落ちたんですね。

なぜこんなに強かったのか。ヨルダン軍の実力だけで戦ったと思いますか？
違うんです。実は、ヨルダン兵の軍服を着たイギリス兵が戦ったんですよ。
パレスチナ・アラブのリーダーであるフセイニーが国を造れば、後々あげつないことになる。潰してしまえ。ならば、ヨルダンというイギリスの息がかかった国でやった方が、戦後の中東政治が上手く行くと考えてやったんです。
そして同じように、エジプトはガザ地区を占領したんですね。

本来パレスチナ人の国になるところを、どこが占領したのか？
イスラエルじゃないんです！ヨルダンとエジプトなんです。
もう一度言いますよ。もう一度言いますよ。パレスチナ人が国を持てなかった最大の理由は、パレスチナの国を取り上げたヨルダンとエジプト。
このアラブの国が占領したから、自分たちの国を持てなかったんです！

これ、歴史の教科書に載ってるやん。歴史家なら知ってるじゃない。中東問題の研究者なら知ってるじゃない。なんでそれ言わないの？おかしくない？おかしいよ！

イスラエルで市民権を持つことができたはずなのに、「おまえら、そこから出て行け」と呼びかけたのもアラブ。パレスチナ人が国を持つはずだったところを、自分たちの占領地にしてしまったのもアラブの国々。イスラエルに責任ないんですよ。

このアラブの国々が、ヨルダンとエジプトが占領したヨルダン川西岸とガザ地区を、イスラエル独立戦争から 19 年後に起こった第三次中東戦争で、イスラエルが先制攻撃されたので、たった 6 日間で押し返して、この 2 つのエリアをイスラエルが占領することになってしまった。
そこから、ヨルダン川西岸とガザ地区占領問題が始まっていくわけです。

イスラエルは、ヨルダン川西岸もガザ地区も占領したくなかったんです。
占領地を増やそうとして侵略戦争したんじゃないんです。
イスラエルは和平を求めて、そして占領するや否や、「もしアラブの国々がイスラエルの生存権を認め、国家として認めてくれるなら、土地を返します」と言ったんですよ。

1967 年の 6 日戦争が終わった直後に、「ランドフォーピース、平和と土地を交換しましょう。ヨルダン川西岸地区を返します。ガザ地区はエジプトに返します。」そうしたら、「返していらん*」(*返してもらわなくていい) と言ったんでイスラエルを認めたくないから。イスラエルがこの地域を占領していたら、イスラエルを悪者にすることができるから。

さて、ヨルダン川西岸の問題について、イスラエルが全面的に返そうとした明白な歴史事実を紹介します。

クリントン大統領が 2000 年、第二次クリントン政権で自分の名前を残したいと思って、中東和平を実現しようと、イスラエルのバラク首相とアラブの代表アラファトをキャンプデービッドで缶詰めにして、「仲直りしなさい！」と超プレッシャー。



バラク（左）
握手するアラファト
（中央はビル・クリントン）

どっちにプレッシャー掛けたかというところ、イスラエルばかりなんですよ。

「イスラエルは、ヨルダン川西岸地区の 92%の土地を、丸ごとパレスチナにあげなさい！これを全部手放しなさい！そして、中東問題にピリオドを打ちなさい！エルサレムは共同統治しなさい！」ブワー言うて。

バラクは呑むんです。「分かりました。」この時、ヨルダン川西岸地区はテロがいっぱいあったんですね。

一方のアラファトは断ったんですよ。ここでクリントン大統領は「アラファト、おまえ、ええ加減にせえよ。92%返ってくるんやぞ。おまえ、ずっとテロやって、イスラエルと戦って負けてるのに、負けてる方が得するんやぞ。何言うてんねん。92%返ってくるんねんから、これで調印しろよ。和平になったらパレスチナの人たちも助かるやないか！」でも、あかん。クリントンはどうしたか。

2001 年 1 月に入って、イスラエル側にもっとプレッシャーを掛けました。ヨルダン川西岸地区の 96%をパレスチナに渡す。そして、ヨルダン川西岸地区全体の 4%に当たるイスラエルの面積をパレスチナに渡す。つまり、ヨルダン川西岸の 96%と、残り 4%は、西岸地区ではないイスラエルの土地を与える。それによって、エルサレムまで直通ルートを繋ぐことができる。もうね、こんなんイスラエル呑む？

その上、東エルサレム（エルサレム旧市街）をパレスチナの首都にする。これ、イスラエル呑みます？呑んだんです。イスラエル国内は、もう国論 2 分。「バラク！ええ加減にせえよ！」でも呑んだ。その案を、アラファトは蹴ったんですよ。これ、意味分かります？

そのやり取りを、サウジアラビアのバンダル王子がずっと見ていて、ハッキリ分かった。アラファトは和平する気がない。100%返って来ても和平する気はない。パレスチナ人がパレスチナ人の国を持つことよりもっと大事なことは、パレスチナ人を難民のままにしておいて、イスラエルを悪役のナラティブに載せて、自分は被害者のリーダーであるシステムを残すこと。その方が、お金が入るシステムが出来上がるから。それが UNRWA です。

実際アラファトが亡くなった時、資産を少なくとも 4500 億円以上持ってた。難民のリーダーが 4500 億円、なんで持てるんですか？世界中から、難民のリーダーということでお金が入るシステムが完成してるからですよ。

イスラエルは土地を持つことから土地を返す。返そうとしても相手が受け取らない

から。エジプトもそうなんです。「ガザ地区はもう返す」言っても「返していらん。」「それなら、一方的にパレスチナの人に返します。」

そうして、2005年にガザ地区からイスラエルの全軍を撤退させて、「どうぞ。」丸投げ。「そんなに欲しいんやったら、どうぞ」と渡した結果、和平出来ました？イスラエルが返したガザはどうなりましたか？ハマスのテロの巣窟です。イスラエルが土地を持ってたら、「なんで占領してんねん！」「返す」言うたら「いらん！」でも、とにかく返したらテロの巣窟。

なぜパレスチナ人が国を持ってないのか？リーダーが持つつもりがないんですよ。だから持ってないんです。イスラエルが国を持てたのは、持つ意思があったから。パレスチナが国を持てなかったのは、持つ意思よりも、イスラエルを悪役にすることに注力したから。

そんな明白な歴史の経緯があるのに、今の中東問題研究者は、なぜそれを言わないんですか？罪深いことだと思いませんか？
なので、私は発信し続けてるんです。中東問題については前から何回も言ってるけど、同じことを何回も何回も言わなければなりません。

ごうちゃんねるで、また各地で行う私の「国際情勢と聖書預言」のYou Tubeでこれからも発信していきますので、お近くに参りました時には、ぜひご参加下さい。近々高崎に参りますので、どうぞいらしてください。

“チャンネル登録”と“いいね”と“世界は聖書でできている”、よろしくお願ひします。ではまた、ごうちゃんねるでお目にかかりましょう。
皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！